



SHOKKEI



SHOKKEI

2016
509

大学院総合人間科学研究科「人間学専攻」来春開設!



大学院総合人間科学研究科 「人間学専攻」来春開設!

輝き
幼稚園年長組

教職員エッセイ 梅の花
大学事務職員/佐々木 未央

卒業生コラム はばたき
厚生労働省 健康局健康課栄養指導室 室長補佐/芳賀 めぐみさん

今号の言葉 宗教主任からのメッセージ

情報掲示板 学校行事報告、同窓会大学部会設立決起集会
同窓会コーナー

高等学校/県高総体優勝・弓道部
インターハイベスト32

vol.
509

2016年(平成28年)
9月10日発行

尚綱学院大学 生涯学習センター

2016年度 後期講座のご案内

「尚綱学院大学 市民大学講座」 -viser la fin-(ヴィゼ・ラ・ファン)-目標をめざす-

時事講座
混迷を続ける国際情勢について中東の専門家に学ぶ
日本人をターゲットにしたテロ行為、イギリスのEU離脱、景気の低迷自国の利害優先のグローバル化など混迷を続ける世界情勢。エネルギー問題や国際貢献をキーワードに中東情勢の専門家に学びます。

講師 水口 章(敬愛大学 教授)
開講日時 12月8日(木) 13時~14時30分
テーマ 「2016年の国際情勢と日本人」
開講場所:尚綱学院大学生涯学習センター/受講料:無料

市民大学講座

●朗読 ボランティア養成講座 ●健康な暮らし講座
●朗読 宮沢賢治の世界 ●転ばぬ先の杖探し

スポーツクラブ絆

場所 生涯学習センター・名取市増田
●ヨガ教室 ●レクダンス
場所 尚綱学院大学ゆりが丘C
●テニス ●バレーボール ●グランドゴルフ ●ウォーキング
●親子カラダづくり教室

オープンカレッジ

●英会話教室 ●ハンゲル教室 ●イタリア語教室 ●書に親しむ
●アロマで癒し講座 ●オカリナ

みやぎ県民大学学校等開放講座2016

第1回 10月4日(火)
テーマ:決定版「雪国」の成立を探る
第2回 10月18日(火)
テーマ:「雪国」作品を鑑賞する
第3回 11月1日(火)
テーマ:「雪国」文芸懇話会とその周辺を探る

講師 田村 嘉勝 尚綱学院大学教授
場所 尚綱学院大学図書館 セミナー室
時間 火曜日 12時50分~14時20分
受講料 無料(先着50名まで)

申し込み方法 所定の用紙に氏名・住所・電話番号を記入の上、郵送・FAXにてお送りください。
問い合わせ先 尚綱学院生涯学習センター
〒981-1224 名取市増田1-1-15
TEL 022-381-1490 / FAX 022-381-1491

幼稚園教諭・保育士のための リカレント講座2016

受講参加対象は保育者でなくても、子どもや子育て等に興味のある方なら年齢問わず誰でも参加できます。

第1回 9月25日(日)14時~16時
講師:前田 有秀(本学子ども学科教員)/テーマ:紙皿シアターを作ろう!!
第2回 10月30日(日)14時~16時
講師:佐々木 孝子(宮城教育大学教員)/テーマ:障害のある子どもとの関わり方
第3回 11月20日(日)14時~16時
講師:安藤 正樹(本学子ども学科教員)/テーマ:独楽回して保育しよう!!
第4回 2月18日(土)14時~16時
テーマ:保育現場で役立つパソコン講座

場所:第1回~3回…ゆりが丘キャンパス、音楽リズム室
第4回………ゆりが丘キャンパス

尚志祭 通APPARE

今年のテーマは「通 APPARE」です。
今年の尚志祭は、去年までの尚志祭ならではの良い所を残しつつも、たくさんの新しいことに挑戦する年にしたいと考えています。
当日は、数多くの出店、お客様も参加できる一般ステージや、子ども向け射的などのブース、お化け屋敷、中夜祭、花火等2日間を通して様々な催しものを準備して、皆様のお越しをお待ちしています!

10/15(土) 開会式 10:00~10:30
一般公開 10:30~16:00
中夜祭 16:00~18:00

10/16(日) 一般公開 10:00~14:30
花火 18:00~18:30

LIVE
平井大 in 尚綱
10/16(日)
14:30 開演
15:00 開演

お問い合わせ 尚志祭実行委員会
TEL022-381-3518 Eメール shoshisai@yahoo.co.jp

おくやみ

島岡 寿輝(90歳)
(本科昭和18年卒業生)
6月6日逝去されました

小畑 允子様(77歳)
(大学事務職員 遠藤可奈絵様ご祖母)
7月19日逝去されました

伊藤 フジ子様(86歳)
(経営管理部・事務職員 伊藤和子様ご母室)
8月2日逝去されました

高橋 利輝(85歳)
(経営管理部・事務職員 鈴木寿様ご岳父)
8月3日逝去されました

須藤 ハチエ様(92歳)
(経営管理部・事務職員 吉谷正樹様ご祖母)
8月7日逝去されました

尚綱学院後援会は、「尚綱誌の発行」と「学院への援助」を行っている支援団体です。学院を応援して下さる方ならどなたでもご加入いただけますので、ご協力の程お願い申し上げます。

尚綱学院後援会会員に加入のお願い

学院への援助と共に尚綱誌が届きます。
(年6冊 5回発送) 5月 7月 9月 12月 2月
※9月のみ通常号・入募集特集号同時発行

年会費 2,000円/年 納入方法 02230-3-2116
郵便振込口座NO

数年分をまとめてのお申し込みも、お待ちしております。手数料無料の振込用紙がございますのでご利用ください。

※尚綱誌購読中の方で、氏名・住所等変更された場合は、ご連絡ください。
※記事を読んだ感想・懐かしい思い出のお写真、楽しい情報等もお持ちしています。
お手紙・おハガキ・TEL・FAX・E-mailにてご連絡ください。

尚綱学院後援会事務局
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
TEL022-381-3342 FAX022-381-3467
U R L: http://ap.shokei.jp/dk/
E-mail: koenkai@shokei.ac.jp

編集委員 徒然日記

4月より里山再生プロジェクトがスタートしました。毎月第二土曜日に整備活動が行われており、うっそうと茂る森をかきわけ、放置されていた枯木の除去・整理や絡まったツタの伐採など、わずかに数時間の活動で雑然としていた森が見違えるほどになります。まだまだ里山と呼べるには年月がかかりませんが、手をかけた分だけ目に見えて変化していく達成感、動植物とふれ合う楽しさを味わうことができます。ライフスタイルの変化により、人が自然に働きかける機会が少なくなっている昨今ですが、「尚綱の森」で里山時間を過ごしませんか? (Y・Y)

より高度で最先端の研究を通じ様々な

社会問題の解決に積極果敢に挑む

大学院総合人間科学研究科

「人間学専攻」

来春
開設!

「人間学専攻」について

人間心理学科 学科長 太田 健児



教育方針

アドミッション・ポリシー (入学受け入れの方針)

- 人間についてより高度で総合的な研究を深めたい者。
- 人間の様々な問題に対応可能な分野横断的な力量を身につけたい者。
- 共生社会構築に向けた指導的役割を果たすため高度で専門的な共生の「原理」や「哲学」を学びたい者。
- キリスト教精神について深い造詣を身に付けたい者。
- 教員としての資質能力をさらに高めたい者、教育関係職にあり学び直したい者。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

- 学位授与に相応する幅広く深い学識及び研究能力を修得できる科目群を体系的に構成。
- 学修課題をコースワークとして体系的に履修する必修科目・選択科目、特論科目・演習科目を適切に編成。
- 学術情報の適切な収集と分析、研究論文・修士論文の完成、評価の高い学会発表、以上を可能とする「特別研究」を設置。
- 高い研究倫理が身につくよう万全に配慮された各指導。

ディプロマ・ポリシー (学術修士授与の方針)

- キリスト教精神の深い造詣、高度な幅広い教養、分野横断的な知見、高い倫理性を有していること。
- 人間の共生に関わる幅広い課題探究、共生の原理を創出しようの力量を有していること。
- 共生社会を構築する一員として総合的リテラシー(情報の解釈・分析・考察・判断・表現の力量)を十分に有していること。

※ディプロマ・ポリシーは、「人間学専攻」において養成する人材像を表しています。

尚綱学院大学によいよ第三番目の大学院が誕生します。その名は「人間学専攻」。これまで大学院は健康栄養科学専攻、心理学専攻(専門職大学院「臨床心理学コース」設置)の二専攻でしたが、今回新設される「人間学専攻」は、尚綱の建学の精神「他者と共に生きる」こと、つまり「共生原理」を高度且つ専門的に研究する大学院で、哲学・倫理学、神学・宗教学、人間形成学(教育心理学や教育哲学を含む)、社会思想(経済学理論や経済倫理、社会学理論や社会学史などを含む)といった学問分野からなります。母体となっているのは人間心理学の人間学系学問ですが、現代社会学科の教員も参加しています。つまり人間心理学以外の学問領域も加えて大学院を将来的に拡大していく予定なのです。

英語はもちろん、ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語、ドイツ語、フランス語といずれの原語での文献講読にも対応可能なスゴ腕、スゴ技の教員が揃っており、特にユダヤ教から初期のキリスト教まで、通史的かつ体系的に研究指導できるスタッフが専任で揃っているのは東北の大学では唯一であり、これが「人間学専攻」の大きな強みであり誇りでもあります。また入試に関して今回の一番の特徴は教会推薦制度入試を導入している点です。キリスト教主義教育を行う本学が、神学・宗教学の学理を深め研鑽を積みたいと願う熱心なキリスト教徒の学びを支援することは社会的な使命だからです。

現代は、知識基盤型社会であり、グローバル化と同時には様々な次元での多様化が進んでいる時代だとい

「取得可能な資格」

- 修士(学術)
- 教員専修免許状^(注1)
 - ・中学校教諭社会科専修免許
 - ・高等学校教諭公民科専修免許
- 児童指導員(児童養護施設職員)^(注2)

(注1) 専修免許状の教職課程は2017年申請予定です。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している開設時期が変更となる可能性があります。

(注2) 児童指導員は任用資格です。

「修了後の進路」

- 国・地方自治体の公務員
- 初等・中等教育機関の教育関係者
- 児童指導員(児童養護施設職員)
- 一般企業の総合職
- 共助社会の構築を担う社会的企業(ソーシャルビジネス)
- 国際社会・格差社会・貧困社会に関わるNPO・NGO
- 博士課程進学
- キリスト教会関係・キリスト教指導者

われています。これに対応するには、高度な専門的知識、高度な教養を土台として、その上に尚綱の建学の精神が加味された見識と実行力とが必要です。そのような人材育成こそ本学の急務であり、真の社会貢献ともいえるでしょう。大学院修了後、国家公務員・地方公務員、一般企業の総合職、教員・各種インストラクター、児童指導員、文筆業、編集者、ジャーナリスト、出版社、新聞社、社会的企業、各種NPO・NGOなど多様な職種へ就くことが出来るよう指導体制も整えています。

在学生に加えて、人生をアカデミックにリセットしたいと願う卒業生・社会人の方々の積極的なチャレンジをお待ちしております。

人間学専攻カリキュラム

	必修科目	授業科目
1 年 次	【特論科目】 人間共生特論 【演習科目】 人間共生演習I	【研究指導科目】 特別研究 【特論科目】 ヘブライ思潮 キリスト教思潮 近代思潮 現代思潮 聖書学特論 宗教学特論 共生哲学・共生思想特論 人間存在論特論 社会経済思想特論 【演習科目】 聖書学演習I 宗教学演習I 共生哲学・共生思想演習I 人間存在論演習I 社会経済思想演習I
		【演習科目】 聖書学演習II 宗教学演習II 共生哲学・共生思想演習II 人間存在論演習II 社会経済思想演習II
2 年 次	【演習科目】 人間共生演習II	

教育課程の特徴

「人間学専攻」の教育課程は、「特論科目」「演習科目」「研究指導科目」の三科目区分で構成されています。ヘブライ思潮、キリスト教思潮、近代思潮、現代思潮の科目により人間の共生を巡る問題を歴史的に研究し、さらに人間共生特論・演習、聖書学特論・演習、宗教学特論・演習、共生哲学・共生思想特論・演習、人間存在論特論・演習、社会経済思想特論・演習の科目により人間の共生構築を文化的、社会的視点から研究していきます。また同時に、研究倫理、学術情報の収集、研究発表、研究論文作成等の指導も計画的、体系的になされていきます。これらの科目構成によって、現代の様々な人間の「共生」の問題を総合的かつ重層的に研究し、「共生社会」を構築しようの人の育成に教育課程の特徴があります。

※詳細はHPをご覧ください。

芳賀 めぐみさん

1988年 尚綱学院大学女子短期大学部家政科 卒業

[卒業生コラム]

habataki

はばたき

vol.43

短大で学んだ専門分野を究めて
キャリアアップ! 「天職」を大事にしつつ
自分らしさも忘れずに



1. 尚綱卒業後どのような経過をたどり 現在の仕事に就きましたか?

短大の食物栄養専攻を卒業後、委託給食会社の栄養士、その後、宮城県津山町で管理栄養士として14年間働きました。津山町では、住民一人ひとりの暮らしに寄り添う保健活動を通して、専門職として、人として多くのことを学び、育ててもらいました。尚綱学院大学の新設に伴い、津山町を退職し、健康栄養学科の教員として管理栄養士養成や栄養学研究を5年間行った後、厚生労働省に入省しました。



国際会議での休憩時間のひとこま

2. 現在の仕事内容とやりがいを感じる時を お聞かせ下さい。

現在は、栄養指導室長補佐として、健康・栄養政策に関する企画・調整等を行っています。具体的には、栄養士法や調理師法に基づく専門職種の養成、健康増進法に基づく食事摂取基準の策定や国民健康・栄養調査の実施など、国民の健康づくりや栄養状態の改善に関する業務全般です。どの業務も長い歴史と多くの人々の努力の上に成り立っているため、そうした「知」や「力」を大切にしつつ、今後の社会全体を見据えた栄養政策を実現していくことの責任とやりがいを感じています。



デスクワーク中

3. 尚綱生へコメントを!

～自分らしさと仕事～

「自分は何がしたいのか」と「自分に何ができるのか」。前者は、自分と向き合うこと。後者は、客観的に自分をみること(尊敬する人物や友人、勉強や仕事の成果など自分以外の目を通して自分をみる)。言い換えると「想い」と「現実」の組み合わせで、これが「自分らしさ」と言えるかもしれません。だとしたら、「自分らしさ」は、努力や経験によって日々進化していきだろから、いま自分の目の前にある仕事が自分らしい仕事、すなわち「天職」なんだろうと思って、日々向き合って一生懸命取り組むことにしています。

1988年 尚綱学院短期大学 家政科卒業
1999年 日本女子大学家政学部 卒業
2008年 石巻専修大学大学院理工学研究科 博士後期課程修了(理学)
1988年以降 日本給食株式会社、宮城県津山町役場、尚綱学院大学教員を経て
2009年 厚生労働省入省、栄養系技官として勤務中

輝き

Vol.8

合同クッキング 流しそうめん



幼稚園年長組

ゆり

体を動かすことが大好きで、お部屋でも外でも元気いっぱい遊んでいます。「～する人この指とまれ～」の声で仲間が集まり、氷おにやサッカー、リレー、ハンターごっこなど色々な遊びが始まります。時々けんかもするけれど、それも大きな経験となっています。小さい組と一緒にダンスを

踊ったり、手裏剣や紙飛行機の作り方を教えてあげる優しい姿も見られます。

年長組として、これからも仲間と協力して、小さい組を引っ張って行ってほしいと思います。

ばら

ばら組の子ども達は、年長組・幼稚園のリーダーとして、日々張り切っているクラスです。

外で遊ぶことが大好きです。お天気がよい日は、泥んこ遊び、だんご虫を捕ったり、友だちと誘い合ってサッカーの勝負、鉄棒の練習等、夢中になって遊んでいます。

また、楽しいアイデアいっぱい、先日はみんなで「流しそうめん」を企画・実行しました。

これからも友だちとのつながりを大切に、いろんなことにチャレンジして行ってほしいです!



年長組全員集合

ゆり組担任 田中館真実 ばら組担任 清野正恵

「隣の人は異文化?」

私はかつて「どうして自分と他人は考えていることが違うんだろう」と不思議に感じていました。当たり前のことなのですが、お互いをよく知る家族や友人でも、考えや感じ方が違うということが不思議だったのです。人間関係に悩む子どもと関わる機会が多かったこともあり、次第にコミュニケーションについて深く考えるようになりました。

そんなある日。「隣の人は異文化」という友人の一言にはっとしました。異文化理解という言葉は海外の人とのコミュニケーションについて用いますが、年齢や性別、国籍などが同じ身近な人でも、自分とは違う考えや感じ方、つまり

「異文化」を持っていて、理解し尊重し合うことが大切だと気づきました。

そのように考えると視点が変わり、気持ちよくコミュニケーションをとるためのヒントも見えてきました。私なりの考えですが、アイコンタクト、笑顔、挨拶は必要不可欠。次に相手の「文化」、つまり考えや気持ちに耳を傾けて聴いた上で、自分の考えも伝えること。コミュニケーションという言葉の原義は「共有すること」だそうですが、自分と他人が違うことを恐れず、心を閉ざさず、オープンマインドで伝えることで、良い関係を築くことができると考えています。

私は現在、ボランティア活動や国際

教職員エッセイ vol.43

梅の花

大学事務職員
佐々木 未央

交流に挑戦する学生と関わっています。学生が様々な経験や人との関わりを通じて「異文化」に触れ、「異文化」を通して自分を見つめ、世界を広げているように支えていきたいと思っています。



宗教主任からの
メッセージ
③



田所義郎

泣きながら
夜を過ごす人にも、
喜びの歌と共に
朝を迎えさせて
くださる。

(詩編30編6b節)

私たちの生活のリズムは、朝起きて、自力で必死に働き、夜疲れて眠りにつくというものです。しかし、必死に働いたとしても、やるべきことが終わらず、寝ている暇などないと自分に言い聞かせることも多いのではないのでしょうか。

聖書の舞台であるユダヤでは、一日は夕暮れから始まり、朝は残りの一日の始めとされています。私たちのリズムとは真逆ではありますが、ここには神こそがまず私たちの寝ている間に働かれ、世界を整えて下さるという神への信頼に基づいた平安のある生活リズムがあるのです。

9月より後期、残りの一年がスタートします。皆さんの生活のうえに神様の導きと支えが豊かにあることをお祈り致します。

情報
掲示板

各学校から
お知らせ

梅雨の晴れ間の多かった今年は
外でのイベントも天候に恵まれ
大いに盛り上がりました

学院

8月19日(金)

中高新体育館竣工式
と旧体育館閉館式

2013年末よりスタートした校舎新築工事も終盤を迎える中、新体育館竣工式及び旧体育館閉館式が執り行われました。当日は工事関係者の皆様をはじめ、多くの方々にご出席いただき、また一つの大きな節目を迎えることができました。たくさん在校生を支え続けた体育館が解体される寂しさはありますが、生徒たちの新しい教育活動の場が提供されることは大きな希望です。今後、年内をめどにグラウンドが整備され、すべての計画が終了する予定です。祈りと共に、その時を静かに待ちたいと思います。

(経営管理部 総務課 鈴木美和)



幼稚園

7月8日(金)

スイカ割り



7月8日、各クラスごとに楽しみにしていたスイカ割りを行いました。大きいスイカを目の前に、「でつかうい!」「やっ!」「と大興奮の子どもたち。一人ずつ目隠しをして、棒を握りしめ、慎重に一歩一歩進んでいきます。周りでは応援グッズを手に、気合を入れて仲間を応援。棒が当たって少しヒビが入ると、「あと少し!!」とさらに盛り上がりました。みんなで割ったスイカはおいしさも格別、何度もおかわりをした子どもたちでした。

(幼稚園教員 田中館 真実)

7月13日(水)～14日(木)
お泊まり会



7月13・14日、年長組は幼稚園でお泊まり会をしました。「まだかなあ」と楽しみにしている子や、「ドキドキする」とちよつぱり不安な子、様々な気持ちを胸に当日まで準備をしてきました。夜はみんなのメニューや、寝る場所、キャンプファイヤーのことを話し合ったり、グループや係決めをしました。いよいよ当日、大荷物を持って元気いっぱいやってきた子どもたち。お泊まり会をしました。「まだかなあ」と楽しみにしている子や、「ドキドキする」とちよつぱり不安な子、様々な気持ちを胸に当日まで準備をしてきました。夜はみんなのメニューや、寝る場所、キャンプファイヤーのことを話し合ったり、グループや係決めをしました。いよいよ当日、大荷物を持って元気いっぱいやってきた子どもたち。

(幼稚園教員 田中館 真実)

中学校

6月11日(土)～12日(日)

中総体



バドミントン部女子

個人戦
シングルス
ベスト16

6月11日、12日に、仙台市中総体が青葉体育館で行われました。自分の出場した団体戦ダブルスは0対2で敗れましたが、個人戦シングルスは、1回戦は五橋中に、2回戦は上杉山中にどちらも2対0で勝利しました。3回戦は附属中に敗退し、青葉区ベスト16でした。私が対戦した相手は全部3年生だったので勝ってしまっているのかと迷いましたが、試合は一回しかないのでベストを尽くしました。勝ったときにはとても嬉しかったです。今まで指導してくれた方々、本当にありがとうございました。また応援してくれた皆さんに感謝しています。

(2年バドミントン部 小林美緒)

7月7日(木)
中1・天文台学習



7月7日に天文台学習がありました。今の季節に見える夏の三角形や天川のしくみ、地球・太陽を含む太陽系の外にある様々な銀河系なども見ることができました。宇宙から見た地球の姿で日本以外にもたくさんの国が光を出していて、とてもきれいだと思いましたが、それは街の光が夜空を明るくし本来きれいだある星が見えにくくなっている問題だと知り驚きました。自分の生活を振り返ってみると、必要以上にリビングの電気をつけていたと思います。このような生活をしているから夜空もきれいにすることができないし、他の問題も出ているのだと改めて感じるものが出来ました。

(1年 奥田うらら)

7月4日(月)～8日(金)
中2・職場体験



※中学2年生は、職業に対する意識を持ち、将来の進路について考えてもらうことを目的として、ホテル・スーパー・老人ホーム等の職種に分れて職場体験をしました。

7月4日から5日間、私たちは職場体験に参加しました。私は「ホテル白萩」に行き、そこで学んだ事は、おもてなしの心をもつ事です。小さな心遣いを大切に、お客様を常に一番に考え喜ばせる事が大切です。お皿やグラスふきなどの地道な作業がある事も特徴でした。一つ一つ丁寧に同じ作業をする事は大変で飽きてしまう事もありました。でも、ホテルの方々はお客様の笑顔が見られれば十分とおっしゃっていました。皆さんは一生懸命で笑顔があふれて素敵な職場でした。今回の経験を生かして自分に合った人々の役に立つような職場を探したいと思っています。

(2年 櫻井凜)

中学校・高等学校

6月22日(水)

防災避難訓練



中高では年に2回の防災避難訓練を実施しています。前期中間考査最終日に化学室での火災発生を想定した防災避難訓練を見学消防署員の立ち合いのもとに実施しました。全校生徒の避難に加えて、新校舎での緊急放送・避難経路の確認や教職員による通報訓練もあわせて行ないました。全校生徒の避難は約15分間で完了し、静かにスムーズに避難することができたと消防署員の方より好評をいただきました。避難訓練後は初期消火の訓練を行い、生徒たちは消火器の使用方法についての指導を受けました。

(総務部主任 松宮 正樹)

平和を考える月間



7・8月は平和を考える月間として、今年も全員で平和七夕の運動に取り組みました。平和学習は聖書の授業で行われ、中学1年生は、総合学習の一つとして、近隣にある防空壕の見学をし、仙台空襲を体験された方のお話を聞いたり、同窓生の手記を読んだりする機会も持ちました。そして、7月22日には、新校舎で初めての平和祈願礼拝を捧げることができました。仙台川平教会の大沼 隆氏をお迎えし、ヨハネによる福音書15章から「主にある平和」のメッセージをいただきました。礼拝堂には、全校生が平和を願いながら折った約10400羽の折り鶴をつないだ26本の鶴チエーンが飾られ、平和への決意を新たにしました。

(宗教部主任 齊藤直美)

7月18日(月・祝)・23日(土)
合唱部・定期演奏会&
ニューヨーク・シンフォニック・
アンサンブル共演



私にとって最後の定期演奏会は改めて素敵な仲間に出会ったことができたと感じられるものでした。先生方に支えられ、部員全員が作り上げたとても良い演奏会になりました。

また23日には、ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの方々と共演させて頂き、今までにない緊張感や達成感を味わうことができました。指揮者の高原さんにもご指導して頂き、本当に素晴らしい経験させて頂きました。今まで温かく見守って下さった先生方、本当にありがとうございました。(前部長 柳瀬そり)

7月23日(土)7月30日(土)
オープンキャンパス



7月に中学校、高等学校それぞれオープンキャンパスが開催されました。どちらも例年以上の参加申し込みがあり、尚綱学院への期待の大きさを感しました。校門をくぐった時には緊張で堅くなっていた児童・生徒たちも、尚綱生に囲まれ、触れ合い、尚綱の雰囲気や体験するにつれ、いつのまにか笑顔がこぼれていました。参加者アンケートでは、「生徒が素晴らしい、感動した」という保護者の声がとても多く、生徒の明るい笑顔と積極的な姿が、好印象だったようです。参加してくれた皆さん、またお会いできるのを楽しみにしています。(入試広報部)

高3・クラス司会礼拝



クラス司会礼拝は、高校3年生が尚綱での学びを神様に感謝して捧げる礼拝です。私は、これまで下級生としてクラス司会礼拝に参加する中で、少なからず衝撃を受けてきました。

自分たちが担当する学年になり不安や期待など様々な気持ちがありました。しかし、クラス皆が心を合わせ、良い礼拝を捧げたいという思いで取り組むことで、成功に導かれたと思います。この礼拝を通して、自分たちがそうであったように、先輩たちが「衣錦尚綱」を体現する「尚綱生」を感じていたら嬉しいですね。そして、このクラス司会礼拝という尚綱の良き伝統を、新校舎においても一年一年積み重ね、引き継いでいきたいです。(3年 今野力)

高等学校
6月4日(土)〜6月6日(月)
高校総体



弓道部 女子団体

女子団体 県総体優勝
インターハイベスト32

女子個人

佐藤有莉佳 県総体優勝
インターハイ第7位
小幡海瑞 県総体第5位



バレーボール部 女子団体

第3位

高校総体中国インターハイを終えて
弓道部3年 佐藤有莉佳



弓道部は、6月3日〜5日の3日間の県総体で女子団体優勝、私も個人戦で優勝し、インターハイへの切符を手に入れました。インターハイが決まってきたのは最初、どんな練習が良いか分からず模索しながらの練習でした。が、八戸遠征で出会った志村先生から様々な事を学び、チームとしてのまとまりが出てくるようになりました。インターハイは団体ベスト32個人第7位という結果でした。決して満足と言える結果ではありませんが、ここまでこれたのは支えて下さった方のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

高校総体に出場して
運動部長 鈴木野生



私は尚綱で3年間ソフトテニスをやってきました。この学校にはコートがなかったため、市営コートでの数少ない練習は集中して取り組みました。部長の私は部員をまとめる事に苦労しましたが顧問の先生や部員のおかげで乗り越えることができました。最後の高総体は、緊張もありましたが何より楽しむことを忘れずに臨みましたが、悔いの残る結果となりました。しかし、皆で頑張ってきた練習の成果を存分に発揮できた試合だったと思います。この部活で3年間過ごさせて本当に良かったです。



剣道部 女子団体

ベスト8

- 個人戦結果
- 硬式テニス
 - 女子個人 佐藤芽維 ベスト16
 - 男子個人 フルレ
 - フェンシング
 - 男子個人 川崎 陸 ベスト8
 - 男子個人 エベ 川崎 空 ベスト16

大学

水曜日 学長企画



6月から水曜日17時50分、つまり6限目に該当する時間に教員が一人、10分程度の話題提供をして、学生、教員入り交じり自由に議論を交わす「コミュニケーション広場」名づけて「尚綱スクエア」がオープンした。合田学長の発案でその趣旨に賛同する教員で結成された「チーム合田(鳥羽、東、相馬、マ、一、木村、黄、阿留多伎、太田の各教員)は、学生が主体的に身を乗り出す、学生たちが他学科の先生方の学問に触れる、先生方同士



の議論に学生が巻き込まれる未体験ゾーンなどなどのアイディアやコンセプトで計画を練り、トップバッターは相馬先生で開始された。絵から何が読み取れるか?人工知能は人類を幸せにするのか?尚綱の森に生息するツキノワグマは「凶暴注意」か?「ブーさん」か?などなど興味津々の話題提供が続く。学生も各学科・各学年から集いくつろぎながらも活発に議論し、合田学長自らも学生、教員と活発に議論し、第6回目は佐々木理事、学院長もお見えになるなど、白熱の度合いはますます高まっています。(人間心理学科教員 太田健児)

6月26日(日) 環境構想学科 環境マルシエ



6月26日(日)サンモール一番町商店街で環境構想学科主催「来て、見て、さわって、楽しめる「環境マルシエ」を開催しました。企業や団体にも、自分たちが行っている環境にかかわる活動内容を紹介してもらい、社会でいかに多くの取り組みがされているか、いかに様々な方面で知られていない取り組みがあるかを皆さんに知ってもらおうという企画です。20名以上の学生たちが各ブースをサポートしました。体験型ブースでは害獣駆除で捕られた鹿角の加工や、書いた絵がエコな島を作り出すアプリの体験、製材現場で出る廃材を利用してはがきを作成したり、布のリメイク製品の紹介など、見て、さわって楽しめるイベントとなりました。さらに高校生が環境にかかわる学びをパネル紹介するブースもあり、生徒たちが緊張した面持ちで自分たちの研究や活動を紹介していました。

梅雨時期でしたが、お天気にも恵まれ、多くの人でにぎわいました。来年も同様の時期に開催する予定です。ぜひ足を運んでみてください。(環境構想学科教員 鳥羽妙)

7月6日(水)
子ども学科
OKバジ&桜井ひろ子
講演会開催



標記講演会
が7月6日(水)
5B講義室で催
されました。テ
ーマは「ネパー
ルの子育て・村
育ち」自立を目
指す支援とは」
でした。「子育て
て・子育て」と言
わないところに講演者の思いが込
められていることを、参会者の多
くが感じ取っていたようでした。お
二人の言葉の端々に、人々の、子ど
もたちの自立、発達を支えようと
する強い信念と確信を見る思いが
しました。参会者それぞれが静か
に深く思考を巡らせ、「ボランティア
活動の原点」、「保育の原点」とい
うべきものについて改めて問い直す
機会となったのではないかと思います。
ありがとうございます。

(子ども学科教員 小松秀茂)

7月7日(木)
宗教部主催コンサート
「バッハの先駆者たち」



去る7月7日に「バッハの先駆者たち」と題して室内楽のコンサートを開催しました。出演者は日本においてバロック音楽界で第一人者のヴァイオリニスト寺神戸亮さん、同じくヴァイオリンの戸田薫さん、昨年に引き続きウイオラ・ダ・ガンバの上村おかりさん、オルガンの今井奈緒子さんの4名でした。2本のヴァイオリンにウイオラ・ダ・ガンバの響き加わり、その弦楽器の響きがオルガンで支えられ、大変上質なそよそよやかなで滑らかな音楽が礼拝堂一杯に響きました。学生の参加も得て、大変有意義な時間となりました。関係各位に心より御礼申し上げます。

(大学宗教研員 佐藤淳一)

7月8日(金)
人間心理学科
「ほめプロへの道」



心理学の研究
成果を社会に役
立てることはで
きないだろう
か? 小さな小
さな疑問から
人間心理学科の
教員を中心とし
た「ほめプロへの道」というプロ
ジェクトを立ち上げました。この
2年間、学会などで成果発表を行
いつつ、その道のプロをお呼びし
た講演会やワークショップも開く
ための準備を行ってきました。7
月には「マレーシアで学んだ世界
で使えるほめことば」と題した2
回目のワークショップを実施しま
した。尚綱学院大学といえはほめ
研究の最前線といえるように、こ
れからも継続的に企画を提供して
いきたいと考えております。

(人間心理学科教員 池田和浩)

7月23日(土)・8月6日(土)
オープンキャンパス
3 Summer



今年7月23日(土)・8月6日(土)の2日にわたり、夏のオープンキャンパスが行われました。両日ともに晴天に恵まれ、昨年の参加者数を大きく上回る1,100名以上の高校生・保護者の方が参加してくださいました。本学に興味をもって来校される参加者に本学の良さを知らしめていたけるよう、今年度は学科ごとにオリジナル企画やキャンパスツアー、入試対策講座を開催。学科それぞれが工夫を凝らした企画で、在校生や卒業生との懇談会、体験授業も充実したものであります。また、多くの学生が

オープンキャンパススタッフとして事前準備から当日運営そして後片付けまで、率先して活躍してくれました。生き生きとした大学生の姿に、近い将来の自分を重ねてキャンパス生活に胸膨らませた高校生も数多くいるのでは?と思わせる働きぶりでした。

(入試広報課長 小島里美)

7月9日(土)
表現文化学科
名取こどもミュージカル
ミニ公演



表現文化学科の専門科目「表現文化特別演習」では、7月9日(土)に学生会館多目的ホールで、名取こどもミュージカルによる「音楽劇みにくいアヒルの子」のミニ公演を開催しました。この授業は、PBLの一環として、学生が舞台監督補、音響、照明、アナウンス、会場演出、広報といった役割を担当し、公演の企画から運営までを行なうというものです。当日は、100名を超すお客様にご来場いただき、とても活気のある公演となりました。高い表現力による感動的なミュージカルを作り上げてくれた名取こどもミュージカルの子どもたちに感謝申し上げます。

(表現文化学科教員 廣瀬愛)

同窓会大学部会設立決起集会



2003年4月に男女共学尚綱学院大学が開学し、2016年3月に10期生の卒業生を送りました。卒業生はそれぞれの職場で活躍をしていますが、卒業生たちが懐かし母校を訪問し、在学時の友人たちと交流する機会を持つために「大学同窓会」が必要で、同窓会設立によって、卒業生と母校の関係を密にして、卒業生にはこれからの大学と学院の発展のために色々な分野で協力して欲しいと思います。特に、後輩たちの就職支援をしていただきたいと強く思います。この度、10期生の卒業生を送り出したことを機に、2016年度学院事業計画の一つとして、「大学同窓会」(正式には「学院同窓会大学部会」と称する)を立ち上げることにし、学院長の下に(尚綱学院大学卒業生の事務職員を主要メンバーとする)設立準備委員会を設置し、まず、設立決起集会を7月23日に開催することを決めて、その日にできるだけ多くの卒業生が集まるように準備を進めて来ました。「森のバク」を借り切って開催された決起集会には64名の卒業生が参加し、合田学長の歓迎の挨拶に続き、直ちに学院同窓会大学部会の設立が宣言され、初代部会長に健康栄養学科卒業の濱田俊夫氏を選出し、加えて副部会長、総務、企画担当の6名の役員も指名されました。懇親会は菊地学院同窓会長の乾杯の音頭が始まり、懐かしい旧友や先生方、職員との交流で大いに盛り上りました。これからは、活発な大学同窓会になると確信できた日でした。

(学院長 佐々木公明)

同窓会コーナー

◆ぶどうの会「聖書に学ぶ会」報告
私達「ぶどうの会」では発足以来、毎年「聖書に学ぶ会」を開催して聖書に親しんで参りました。今年7月11日(月)梅雨の晴れ間、緑豊かな尚綱学院大学に建つエラ・オー・パトリックホームに、深田寛牧師をお迎えして讃美歌を歌い、先生の講話をお聞きしました。

◆八三会(墓前礼拝)報告
8月3日、恒例の「八三会」が北山輪王寺キリスト教墓地にて、同窓生、学院関係者多数が集い行われた。ブゼル先生生誕150年、没後80年の年。仙台ホサナ教会牧師の長尾厚志先生より「主と共に働く」の講話を拝聴。墓地に眠るブゼル先生を取

り囲むように建つ没故者。その墓石名とブゼル先生との関りの話を伺い、先生の教育愛を新たに知り感慨深い墓前礼拝でした。

◆幹事会報告
八三会後、会場を中高会議室に移し幹事会が開催されました。小島副会長の進行により工夫を凝らした各支部活動や本部行事の連絡と報告がありました。学院長はじめ先生方より学院の近況報告を聞き心が元氣になり、名誉会長である佐々木学院長の「同窓会が活発になる」ということは学院の力になる」との言葉に身が引き締まる思いがした一時でした。

◆インフォメーション
◆アフタヌーンコンサートのご案内
日時 10月8日(土) 14時30分
場所 中学校・高等学校礼拝堂
出演 大学・子ども学科教授 佐藤淳一
◆クリスマス礼拝のご案内
日時 11月26日(土) 13時
場所 中学校・高等学校礼拝堂
会費 500円(菓子代等)
★お問合せ:同窓会事務局
022・264・5830